

静岡県伊豆市わさび田における植物調査

石渡 大介（静岡県立田方農業高等学校）

立田 竣亮（静岡県立田方農業高等学校）

○榎原 学（静岡県立田方農業高等学校）

馬場 富二夫（静岡県農林技術研究所）

【背景および目的】

静岡県の水わさび栽培は、肥料、農薬を使用しないため環境負荷が少ない農法である。急峻な地形の山間地にあつて、水の流れを緩やかにしているわさび田は、生物多様性を育む場としても重要な場所となっている。このような栽培方法が認められ、2018年にFAOの世界農業遺産に「静岡水わさびの伝統栽培」として認定された。現在、私たちは、わさび田の底生生物および水生昆虫類を主とした生物相の調査に取り組んでいる。今回、わさび田における植物の採集を行ったのでその報告をする。植物調査を行いその種類をリスト化することは、伝統栽培を継続していくためにも重要であり目的とした。

【材料および方法】

調査は、伊豆市筏場の小嵐橋にあるわさび田（標高 310–340m）で行った。調査方法は、わさび田の水中、わさび田横の石垣の下、上の3地点とし、自生している植物を無作為に採集した（図1）。採集した植物は、学校に持ち帰り種類を調べた。明確な種名の同定は難しく、科名までとした。



図1 調査を実施したわさび田

【結果および考察】

表1に調査結果を示す。地点①わさび田水中では、ワサビ以外の植物数は少なかった。これは、常に水が流れている環境にあつてワサビ以外の植物種子の発芽ができず、他植物の生育を抑えている効果があると考えられた。栽培管理における雑草の除草、防除対策を考えると生産者の除草労力の削減につながっていると考えられる。種類としては、クレソン（アブラナ科）、ウキクサ属が確認された。地点②③石垣の上（陸上）、下（わさび田に接している）では、キク科植物が目立った。また、地点②陸上では、シダ類を確認した。

今回の調査は、12月1回のみのため、わさび田の植物相ならびにワサビ栽培における雑草について明確にするデータを得ることはできなかった。今後、計画的に年間を通した調査を行い、植物同定の力も身に付けて行きたい。今回、採集した植物は標本として保存、蓄積していくため、作業を継続中である。

表1 本調査で確認した植物 数字は種数を示す。

	調査ポイント		
	①水中	②石垣上	③石垣下
アブラナ科	1	1	2
セリ科	1		
ウキクサ属	1		1
キク科		3	4
キンポウゲ科		1	2
カヤツリグサ科			1
ナデシコ科			1
イワウメ科			1
イワヒバ科			1
コケシノブ科			1
ヒメミスワラビのなかま	1		
シダのなかま		3	
コケのなかま		1	
未同定種	3	4	4